螺旋階段

聖魔光闇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

螺旋階段

【Nコード】

N34390

【作者名】

聖魔光闇

【あらすじ】

私は薄暗い螺旋階段のある部屋にいた。

(前書き)

夢が夢でなかったら、あなたは、どうしますか？

夢を見た。上を見上げて先が見えない。下を見ても底が見えない。薄暗い螺旋階段のある部屋にいる自分の夢を。

私は自分がどこにいるのか分からなかった、けれども上にも下にも階段が続いているので、地上付近でないと判断し、その階段を降りて行った。

もうどれくらい降りただろう。体は疲れ果てていたが、まだ底は見えない。薄暗い螺旋階段の中上を見上げると先の真っ黒になった空間が広がっている。私は、引き返そうかと思ったが、あと少し下に行けば底が見えるような気がして、また階段を降りて行った。

やはりいくら降りても底は見えない。精も魂も疲れ果て私はその場に座り込んだ。下を見下ろすと真っ暗な闇が私を引きずり込みそうだった。私は背筋に寒気を感じ、引き返す事にした。

いくら上がっても最初の部屋がない。階段はまだまだ続く。上へ、上へと上がり続けた。重たい足を手で持ち上げながら階段を登る。しかしやはり天井や屋上らしきものだけでなく、最初の部屋に辿り着かない。もう少し、もう少しと唱えながら階段を登る。しかし頭上に広がるは漆黒の闇だった。

私は途方に暮れ、またその場に座り込んだ。下に降りても、身を引きずり込みそうな闇。上を見上げても光さえ見えない漆黒の闇。私は薄暗い階段に腰掛け自分に囁いていた。夢だ。夢だ。と。

私の朝はいつ来るのだろう。

(後書き)

そして彼(彼女)は、夢から覚めたのでしょうか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3439o/>

螺旋階段

2010年10月16日19時09分発行